

たくさんのご支援、応援メッセージありがとうございました。



当センターが12月13日より実施してまいりました、救急車更新のためのクラウドファンディングについては、地域の皆様、地域の企業の皆様、地域の医療関係者の皆様、プロジェクトの趣旨に賛同いただきWEBを通じてご支援いただきました皆様、当センター職員・OBの皆様、など多くの方からご支援いただき目標金額を達成することができました。本当にありがとうございました。

クラウドファンディングを始める前は、こんなに高い目標の中で本当に達成することができるのか大きな不安もありました。しかしながら今回555名の方からのご支援と温かい応援のメッセージをいただき、改めて多くの地域の皆様に期待を寄せられ、支えられていることを実感しました。心より御礼申し上げます。

今後は、更新させていただく救急車の整備内容を決定し、早期に新しい救急車を導入して、高い水準の地域医療を安心安全にお届けし続けることで、私たちから皆様へ恩返しができるよう全力を尽くして参ります。新しい救急車は、令和5年10月頃の導入を予定しており、導入時期や整備内容については当センターのホームページなどでご報告します。

これからも地域医療に貢献できるよう努力を怠ることなく、日々精進して参ります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

クラウドファンディングに関するお問合せ
0748-22-3030(担当:小西)

当センターからのお知らせ

脳神経内科の診察が再開します。

当センターの脳神経内科に国立病院機構紫香楽病院から脳神経内科部長が着任し、令和5年4月から本格的に脳神経内科診察を開始します。

当面は、週2回(火・木曜日)の外来診察から始めます。

今後、診療体制及び診療スタッフを充実して参ります。

よろしくお願いいたします。

担当医 金一暁

卒業大学: 滋賀医科大学
専門医等: 神経内科専門医、総合内科専門医



周辺地図



アクセス

公共交通機関ご利用の場合

電車・バス

JR東海道本線「近江八幡駅」下車、近江鉄道に乗り換え「八日市駅」下車。

【近江鉄道バスご利用の場合】

「東近江総合医療センター」または「五智前」下車。

【コミュニティバス(ちよこっとバス)ご利用の場合】

市原・沖野玉緒・南部御園線「東近江総合医療センター」下車。

高速バス

名神高速バス「名神八日市」下車、東方へ徒歩約5分。

車をご利用の場合

名神高速道路「八日市IC」から約2分。

「八日市IC」を出て1つ目の信号を右折し約300m先右側。

つながり

新院長からのメッセージ

信頼される
中核病院を目指して。



広報誌が
新しく
なりました!

HOSPITAL DIRECTOR'S MESSAGE

院長からのメッセージ

院長
野崎 和彦

“東近江総合医療センターのこれから”

信頼される中核病院を目指して。

このたび、令和5年4月より院長に就任いたしました野崎和彦です。この場をお借りしてご挨拶申し上げます。私はこれまで脳神経外科の専門医として京都大学医学部附属病院などで診療および研究に従事した後、平成19年より滋賀医科大学医学部で教授職を務めさせていただき、令和4年春より当センターの副院長に就任しました。そして今回院長という大役を拝命し、身の引き締まる想いです。当センターは地域に根ざした中核病院としての役割を担っており、この使命をしっかり果たしていきたいと考えております。限られた医療リソースで効果的な診療を展開するためには各医療機関の間での有機的な役割分担が重要です。

当センターは救急・小児科・産科医療を含め、地域に必要な医療の提供に注力しております。また「滋賀医科大学 地域医療教育研究拠点」として位置づけられており、滋賀医科大学との連携を維持しつつ地域医療に必要な人材を育てていく役割も担っております。当センター内には総合内科学講座と総合外科学講座が設置されており、各領域の専門性を維持しつつ、広い視野で総合的に診療にあたる

ことで、「疾患を診るのではなく人を診る力」を養うように努めております。各診療科の医師が集まる合同カンファレンスや医師以外の医療職も含めた多職種カンファレンスを重視しており、それぞれの視点から意見を尊重しつつ最良の治療・ケアにつなげています。令和4年12月より病院救急車更新のためのクラウドファンディングを行わせていただきましたが、地域の住民や企業の皆様、また医療関係者の皆様から温かいご支援をいただき、幸い目標金額を達成することができました。新しい救急車導入に向け準備を進めております。改めて当センターは地域の方々に支えられていると実感するとともに深く感謝申し上げます。また、この令和5年2月末に日本医療機能評価機構による評価を受け、その際にいただいたアドバイスを参考にして医療の質の向上に活かしたいと考えています。これからもすべての職員が安心して働ける環境を整備しつつ、皆様から信頼される病院を目指して協働できる体制を作り上げていくとともに、地域の医療関係者の皆様との良好な関係構築にも努める所存ですので、何卒よろしく願い申し上げます。

新体制でこの街の地域医療を支えていきます。

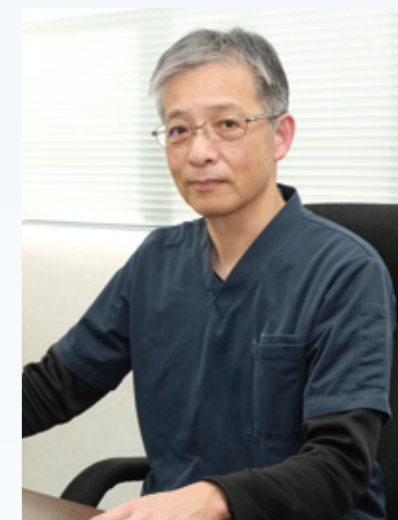
STAFF MESSAGE

東近江総合医療センター スタッフメッセージ

副院長

目片 英治

地域のニーズに応えるべく、各診療科の医師は一般診療を行いながら、それぞれが所属する学会の専門医でもあり、幅広く診療を行いつつ、夜間休日の対応も少人数の当直医で対応し様々な症例を受け入れております。このような日々の診療の中で、我々に不足している点は何か?について、考える間がないのが現状で、言い訳であります。新体制で再スタートするうえで、丁度良い機会となったのが、先日の病院機能評価の受審です。“医療の質の向上と信頼できる医療の確保”がポイントですが、私が担当でもある医療安全の分野については、多くの項目を再認識し、見直すことができました。また、当センターにおいて日々の診療や業務において、大きな課題であった事は、紙を用いることの多かった情報共有の在り方でした。どこの組織も共通の問題点を抱えておられると推察します。今回の機能評価のタイミングで、大きくデジタルへ切り替えができました。最後に、皆様からのご寄付(クラウドファンディング)で目途がついた救急車ですが、今後の整備を急ぎ、使える体制を整え、日々の診療をブラッシュアップしたいと考えます。



内科診療部長

杉本 俊郎

当センターの内科の特徴として、循環器、呼吸器、消化器、糖尿病・内分泌内科の専門的な診療を担うのみならず、内科医として、臓器横断的な内科全般の診療を担っているのが特徴です。この臓器横断的な内科全般の診療を担う総合内科的な視点が、新型コロナウイルス感染症の診療にも生かされ、約3年間で、700例を超えるCOVID-19の入院症例を担当することが出来ました。また、内科のもう一つの特徴として、内科の医師の中に、地域医療を支援するために設立された滋賀医科大学総合内科学講座の教官が複数在籍し、将来の地域医療を担う医師の育成を行っていることも挙げられます。今後も、東近江医療圏の住民の皆様のための診療とともに、地域医療に貢献する後進の教育にも邁進したいと考えております。



看護部長

野田 記世

新型コロナウイルス感染症がなかなか治まらず、当センターでも令和4年12月のはじめてクラスターが発生しましたが、職員の協力のもと短期間で乗り越えることができました。当センターでは急性期から慢性期、終末期とあらゆる病期の患者さん、ご家族へ専門職業人として知識・技術を提供するとともに患者さんの思いに寄り添うことができる感性を磨き、看護が実践できるよう取り組んでおります。入院前の外来から関わり、退院後へと在宅医療・介護などの地域医療機関とより密な連携を図り、患者さんが安心して療養できるよう多職種と協働して退院支援を実践しています。そのためにより質の高い知識・技術を身につけられるよう職員同士が共に学び合い、高められるよう努力しています。今年度も「質の高い医療を提供するとともに、確かな技術と豊かな人間性を備えた医療人の育成に努め」患者さんが自分らしく輝き、生活していくことができるよう支援していきたいと思っております。

